

## 平成28年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2016

東京文化財研究所

## 『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成28年版は、B5判、563ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

## 『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は422号、423号、424号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究

## 無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

## 無形文化遺産部出版関係事業(△04)

## 『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

## 『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第12回にあたる本年度は、「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



## 保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

## 『保存科学』第57号の出版(ホ07)

佐野千絵、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、和田浩(東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室長)、中山俊介、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された17件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文1件、報告14件、計15件の掲載を決定した。



## 『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。平成29年度の概要はA4判37ページ。

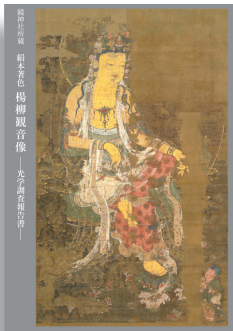


『TOBUNKENNEWS』はウェブサイト公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、2頁のコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。平成29年度はNo.64(7月刊、40ページ)、65(11月刊、40ページ)、66(2018年3月刊、52ページ)を刊行した。



『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。

## プロジェクトの一環として刊行された刊行物



### 『鏡神社所蔵 重要文化財

#### 絹本着色 楊柳観音像 —光学調査報告書—

佐賀県唐津市に所在する鏡神社に伝来した「重要文化財 絹本着色 楊柳観音像」は、1310(至大3)年に制作された高麗仏画の大作である。本報告書は当該作品の光学調査に関するもので、可視光、蛍光及び近赤外による高精細画像、蛍光X線分析による彩色材料調査結果及び作品の造形に関する論考を併せて収録した。2018年3月刊行、208ページ。

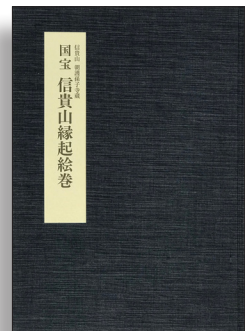
(①シ02の一環として実施)

### 『信貴山 朝護孫子寺蔵

#### 国宝 信貴山縁起絵巻調査研究報告書—光学調査編』

東京文化財研究所と奈良国立博物館による共同研究の一環として行った、平安時代の絵巻物「国宝 信貴山縁起絵巻」の光学調査に関する報告書である。可視光、蛍光及び近赤外による高精細画像と、蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、439ページ。

(①シ02の一環として実施)



### 『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』増補版

2017(平成29)年3月に開催した公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」予稿集で公開されたすべての発表要旨英訳を加えた増補版をpdf発行し、当研究所ウェブサイトで公開した。2017年6月刊行、41ページ。

(①シ04の一環として実施)



## 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

## 卷三・巻四 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻三・巻四を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、230ページ。

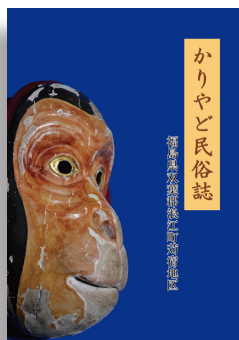
（④シ05の一環として実施）

## 『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

## 卷五・巻六 光学調査報告書』

東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003（平成15）年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻五・巻六を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年3月刊行、254ページ。

（②ホ03の一環として実施）



## 『かりやど民俗誌』

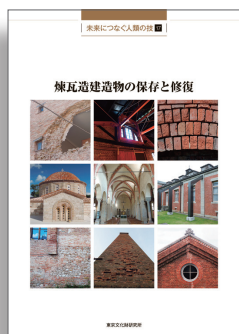
東日本大震災及び原子力発電所事故により離村を余儀なくされた（平成29年度より帰還可能）、福島県浪江町苅宿地区の民俗誌。地区に伝わる鹿舞・神楽を中心に明治以降の記録類や産業、年中行事などを記載。また古写真を収集し、掲載した。苅宿地区全戸に配布。PDF版は無形文化遺産部のウェブサイトでも公開。2018年3月刊行、74ページ。

（①ム02の一環として実施）

## 『箕一箕サミット2017の記録』

2017（平成29）年11月13日に国指定の箕づくり技術の伝承者を招いて開催した「箕サミット—編み組み細工を語る」の記録。技術継承の現状や課題、展望を多様な関係者と共有・議論することを目的としたパネルディスカッションの全内容に加え、各団体による実演の記録も収録した。PDF版は無形文化遺産部のウェブサイトでも公開。2018年3月刊行、55ページ。

（①ム02の一環として実施）



## 『未来につなぐ人類の技17—煉瓦造建造物の保存と修復』

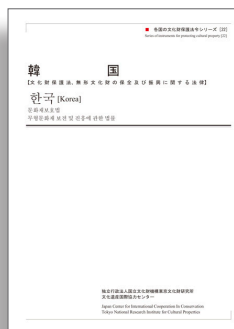
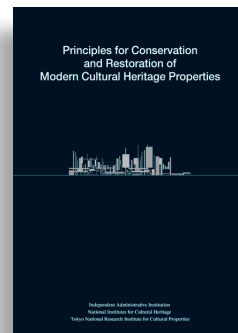
本書は、近代文化遺産研究室が平成28年度に実施した「煉瓦造建造物の保存と修復に関する研究」の成果をとりまとめた報告書である。文化財所有者・修理技術者等が、保存と修復の実務で利用することを念頭において、国内外の学識経験者と行政担当者の論考に加え、同室が実施した事例調査の分析結果をまとめた事例集を収めている。2018年8月刊行、126ページ

（②ホ06の一環として実施）

## Principles for Conservation and Restoration of Modern Cultural Heritage Properties

本書は、ドイツの産業遺産、日本の産業考古学、文化財修理、近代史の専門家による講演内容を取りまとめた、「未来につなぐ人類の技 16—近代の文化遺産の保存理念と修復理念」(2016 (平成28)年3月刊行)の英訳版である。近代文化遺産の保存修復に係る特性を明らかにし、今後の保存対策について考察を行っている。2018年3月刊行、71ページ。

(②ホ06の一環として実施)



### 『各国の文化財保護法令シリーズ[22] 韓国』

#### 【文化財保護法、無形文化財の保全及び振興に関する法律】

本冊子は、近年有形文化財と無形文化財を個別の法令で取り扱うなど大きな改正がなされた、韓国の文化遺産に関する法令を和訳したものである。巻末に原文もあわせて掲載している。日本語・韓国語、2018年3月刊行、219ページ。

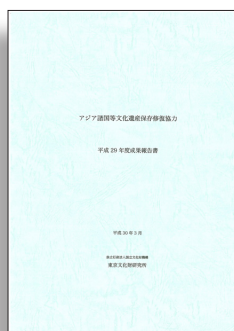
(④コ01の一環として実施)

### 『世界遺産研究協議会』

#### 世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割』

本冊子は、2018 (平成30)年1月18日に開催された「世界遺産研究協議会 世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割」の講演内容を書き起こしたものである。巻末に講演内容に関連した世界遺産関連用語を掲載している。日本語、2018年3月刊行、58ページ。

(④コ01の一環として実施)



### 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力』

#### 平成29年度成果報告書』

平成29年度にアジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア、イラン、アルメニア、ブータンほか各国を対象に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。

日本語、2018年3月刊行、116ページ。

(③コ02の一環として実施)

### 『考古学的知見から読み取る』

#### 大陸部東南アジアの古代木造建築』

2017 (平成29)年2月に東京文化財研究所において開催した同研究会の議事録。ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの4か国より招聘した専門家及び日本の専門家が、考古学的調査によって得られた知見を通して既に失われた木造建築の実像に迫るための各国の試みを紹介した講演の内容、会場からの質疑応答及び総合討論の内容を収録。日本語・英語併記、2018年3月刊行、157ページ。

(③コ02の一環として実施)



### A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar

本書は、平成28年度より継続するMe-taw-ya寺院(バガン、ミャンマー)における複合文化財として捉えた保存修復活動に関する調査研究結果、関連資料、実施内容等を掲載している。英語、2018年3月刊行、106ページ。

(③コ03の一環として実施)